



香川県観音寺市などの水道原水からPFAS（有機フッ素化合物）が県内で初めて検出された

県内PFAS初検出 原因究明・対策本部の設置 血液検査などを求める

問題で、日本共産党の檉昭二香川県議は2日、池田豊人県知事宛てに原因究明を求める申し入れをしました。

河村整西讃地区委員長、長岩田秀樹三豊市議、藤田均観音寺市議、さい孝志衆院香川3区候補が同席しました。

PFAS検出原因の究明とともに対策本部と相談窓口設置、早急な情報公開、水質検査、汚染源調査、血液検査などの実施を求めました。

1日と2日で観音寺、三豊、高松の3市4カ



定価 月 100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13-14
☎(087)834-7311

香川県母親大会に300人

第68回香川県母親大会（同実行委員会主催）が4日、高松市で開かれ、オンライン含め約300人が参加しました。

弁護士の角田由紀子氏が「日本国憲法とジェンダー・どこまでできたのか日本のジェンダー平等」のテーマで記念講演。「現行憲法をのちで、ジェンダー不平等を法で規制し、現在のジェンダーをめぐる社会規範を廃止することが車の両輪だ」と説明。国際的に日本がジェンダー平等で最下級に位置付けら



れる実態をのべ、ジェンダーギャップ指数や男女間賃金格差、DV、中絶、売買春問題などを解説。選択的夫婦別姓への根強い反対や、人工妊娠中絶の夫の同意要件などをあげ「法的、社会的に特に女性を差別する仕組みが維持されている」と強調しました。

講演会のほか、全体会や、保育・健康・農業・ジェンダー・平和（ピキ二被爆）・美容のテーマで分科会が行われました。

異台教太

「おカネと自民党」そのあやしい関係が改めて浮き彫りになりました。▼自民党が実施した（しんぶん赤旗8月16日2面）です。岸田首相の退陣でこれでおしまいというわけにはまいりません

アンケートだけでも政治資金収支報告書への不記載・誤記載5億8千万円85人と報じられています。いずれも安倍派が二階派だといえます。調べた時期や対象も現職議員に限るなどお手盛り調査と報じられています。「隠す人はうまくやっています」という態度が透けてみえます。裏金の行方はどこか？何が起きているのかは見えてきませんね▼岸田首相の支持率は2割を割るところまで国民世論が追い詰めてきました。首相が「もう出ません」ということで、ことが終わりになりますまい。これから民の声の厳しい追及がはじまります。いつまでも自民党政治を続けさせるわけにはいきません。▼戦後79年。核兵器をなくす政府をつくる一歩を踏み出そう。戦争する国家をめざしてきた自民党さんには当然退場の道を歩んでいただく。日本国憲法、とりわけ9条を掲げて8・15。あらためて声高く世界に「戦争さようなら」を訴えて、平和を発信する8月としましょう。

年金者組合が定期総会

全日本年金者組合香川県本部は7月31日、第31回定期大会を高松市で開きました。田中金春委員長は「岸田政権は『戦争する国づくり』を進める一方、医療・介護・年金など社会保障は削減し、物価高騰のなか年金は実質的に引き下がっている」と報告。優先し、国民のいのちや生活が最優先になっていない」とのべました。

活動方針として、無年金者をなくすため、最低保障年金制度の実現や全世代が安心できる年金制度を目指す署名活動の実施、加齢性難聴者への補聴器購入補助、買い物難民をなくす取り組み、また平和と民主主義、暮らしを守る運動などが提起され、賛成多数で採択されました。



お詫びとお知らせ

今月、しんぶん赤旗日曜版が合併号となったことで、民主香川の発行日の予定が調整できませんでした。8月度が月2回の発行となってしまったことを、深くお詫び致します。8月が2回の発行となりましたので、9月度の発行を4回（1・8・22・29日付）にする予定です。ご了承下さい。 民主香川社

讃岐の文学碑めぐり ⑬ 「蕪村寺」と呼ばれる妙法寺（丸亀市） 与謝蕪村（一七二六～一七八四）その二 文・写真 深沢 雨根

蕪村は讃岐滞在中に、高松丸亀、琴平で多くの絵を描いている。とくに丸亀市富屋町にある妙法寺には「蘇鉄図」「寒山拾得図」「山水図」（一双、三双）「寿老人図」「墨画竹図」の六点が残されており、いずれも国の重要文化財に指定されている。妙法寺は、「蕪村寺」と呼ばれるほど蕪村と深い関係にあったのである。境内には一九七六年に建立された句碑がある。

門を出れば 我も行く人 秋の雪れ 蕪村は明和四年、琴平を訪れ、金川屋臨川亭に滞在している。現在ここは、橋本屋旅館になっており、「臨川亭址」の石碑が立てられている。臨川亭は、金倉川の一の橋のそばにあった。昔、鞘橋（国登録有形文化財）はここに架かっていた。蕪村の句碑

は、琴平町公会堂の藤棚のところに一九六九年四月に建立されている。象の眼の 笑ひかけたり 山桜 金比羅さんの山（大麻山）は、象に似ているので象頭山とも呼ばれている。その眼の辺りに、ちょうど山桜が咲いており、まるで象が笑っているように見えた、という意である。琴平の人たちが蕪村を喜んで迎え入れた様子が伝わってくる句である。琴平では名家・菅暮牛（金川屋左平太）のもてなしを受けている。菅家の菩提寺が丸亀の妙法寺であった。蕪村は明和五年、妙法寺の襖絵を完成させ、四月二十三日に讃岐を去った。妙法寺にはもう一つ句碑がある。二〇〇〇年に建立された



琴平公会堂の句碑



妙法寺の句碑

もので、蕪村が讃岐を後にするときに詠んだ句である。長尻の 春をたたせて 棕櫚（ひゅる）の花 この句には、「さぬきに三とせ斗ありて京へ帰るとて留別也」と注記がある。結局蕪村は足かけ三年も讃岐に滞在したのである。棕櫚はまっすぐな高木で、花は五・六月に咲くので初夏の季語である。つい滞在を延していたら、春が過ぎ去り、夏になってしまった、という意味である。讃岐に来る前、「しばらく田舎漢を相手二可致候。おもしろからぬ事に候」（『蕪村全集第五巻』）などと書いていた蕪村だが、讃岐を名残惜しむ想いが詠まれており、妙法寺での滞在が心地好いものであったことがわかる。